

講演

現代における“教養”とは

東京工業大学リベラルアーツセンター設置記念講演会

2012.5.10 大岡山キャンパス 西9号館デジタル多目的ホール

リベラルアーツセンター長・教授 桑子 敏雄

教授 池上 彰

教授 上田 紀行

何が問いなのかと問われる 時代の教養とは

池上 まず、リベラルアーツセンターとはどういうものか、桑子センター長からお願いします。

桑子 1989年に東工大に赴任するまで、私は文学部哲学科で哲学の担当をしていました。文学部では、いわゆる文献研究が主ですが、理工系の学生には哲学的な思考の方法から説明しないと分かってもらえない。理工系大学で哲学を教えるということには大きな興奮と驚きがあり、私自身も随分考え方を変えました。ただ、その頃は、文系教養教育は日本の将来にとってはそれほど重要ではないという認識が若干あったように思います。

ところが1995年にオウム真理教事件が起こり、社会の認識は一変しました。

池上 幹部や信者の中に理科系の学生や出身者が大勢いたのが大きな問題になったのですね。

桑子 そういうことです。それを機会に教養教育が重要であるという声はかなり出ましたが、根本的に見直すところまでは至りませんでした。

東工大ではくさび型教育^{*1} といって、大学院まで伸びる形で、教養教育を重要視しようという伝統が強くあり、今回、その伝統を活かす形でこのセンターが設置されました。専任の先生はまだお二方だけですが、これから、東工大のリベラル教育、理工系学生のための教養、さらには、日本の社会を担っていく若い人たちの教養の在り方を議論して、それを大学に提案し

ていくと同時に、社会全体にも発信していきたいと思っています。

池上 さて、上田先生、教養とはどんなものなのか、どのようにお考えですか。

上田 ここに呼ばれたときは、すごく驚きました。何しろ、そのときの僕の専門は、「スリランカの悪魔祓い」でしたから（笑）。



日本語の中では「教養」はもはや減りつつある言葉だと思うんですよ。けれども、「教養のない人ね」と言われると傷つきますよね。「数学できないわね」とだと、単に能力の話なので、「英語ならできるよ」と言えるけれど、「教養ないわね」は人格否定になっちゃう。ある種の全体性を持っているというのが教養の考え方なんですよ。

日本で、この教養が登場するのは、「大正教養主義」の頃です。ゲーテやカントなど教養書といわれるものを読んで、学生が論理武装して教養人になっていきました。

池上 デカルト、カント、ショーペンハウエルをまとめて「デカンショ」と言いましたね。

上田 その後何度か波はあったのですが、1970年代から崩壊していく。なぜか？ 一つには、大学生が増えて、エリートではなくなったので、教養ある人間を差別化する必然性がなくなったこと。また、教養があって貧乏な人と、お金があって教養のない人とどっちを結婚相手とするか。「やっぱりお金」と選択するような風潮も原因です。

金儲けするという一元化された価値の中では、それだけをやればいい、教養という役に立たないものを持っていても意味がないとされ、大学でも教養課程を重視せず、早く専門化をして役に立つ人間を送り出すようになってきました。

経済が安定して、やる事が完全に決まっている時代ならばそれでよかったのです。誰かが問いを出してくれて、それをいかにエレガントに解くかですから。

しかし、この社会で何が問いなのかと問われる時代においては機能しないのです。例えば今回の大震災や原発の問題でも、枠組みを出たら機能しない人間の無力さが明らかになりました。

そんな中で、もう1度教養が問題になるのですが、恐らくそれは、デカンショだけを読んで「僕たちはエリートなんだよ」と見せつけるような教養とは違った教養だと思うんです。

池上 私も東工大からのお誘いには「えっ、小学生向けに易しく解説してた私が、なぜ大学へ？」と驚きました。しかし、あの3月11日以降、例えば原子力の専門家の話が一般の人に理解されなかったり、官邸に呼ばれた理科系の人たちが機能しなかったりということから、文科系と理科系が分かれている今の日本社会の問題点が見えてきた。文理融合の新しい社会を考えるために、私も取りあえず理科系の大学で文



くわこ としお

1951年群馬県生まれ。1975年東京大学文学部哲学科卒、1980年同大学院博士課程中退、同文学部助手、1981年南山大学文学部講師、1984年助教授、1989年東京工業大学工学部助教授、1996年同大学院社会理工学研究科教授。2011年より東京工業大学リベラルアーツセンター長兼務。



いけがみ あきら

1950年長野県生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、1973年にNHK入局。社会部記者として多くの報道現場を経験後、キャスターに。1994年から11年にわたり、「週刊こどもニュース」のお父さん役として平易な言葉でニュースを解説。2005年よりフリー。ニュースの本質をわかりやすく解説し、テレビ各局で大活躍中。2012年より東京工業大学リベラルアーツセンター教授。



うえだ のりゆき

1958年東京都生まれ。東京大学大学院文化人類学専攻博士課程修了。1986年よりスリランカで「悪魔祓い」のフィールドワーク調査を行う。愛媛大学助教授を経て、1996年東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻助教授。2004年学生による授業評価が学内トップとなり、「東工大教育賞・最優秀賞」（ベスト・ティーチャー・アワード）を受賞。著書『生きる意味』（岩波新書）は2006年度大学入試出題数第一位。2012年東京工業大学大学院社会理工学研究科教授とリベラルアーツセンター教授を兼任。医学博士。



科系への何らかの橋渡しをしたいと思います。また、これからの世代を支える人たちを育てることが、少しでも社会への恩返しになればと思っています。

男女交際は現代に生きる 教養のひとつ

池上 さて、桑子センター長から見て、東工大の学生の印象はいかがですか。

桑子 私は哲学と倫理学の他に、「社会的合意形成の技法」という科目をやっています。実は、これは古くからあったのではなく、私自身が、例えばダム建設の是非をめぐる話し合い、あるいは道路建設や森林の保全などで、行政の方や理工系の先生と一緒に作業する中で、必要性を実感したものです。理工系と

文系が一緒に作業して、問題意識に目覚めて新しい分野を創造したわけです。

東工大生は、例えばグループワークでも、あっという間に情報の共有のシステムをつくり上げてしまう。そういう意味で、文系の学生とは随分違いますね。

ただ、コミュニケーション能力が不足しているという自覚は彼らにもあるようです。先日の授業では男女のコミュニケーションのやり方が分からないという話もありました。笑い事ではなく、大学時代に男女の交際の仕方を学ぶというのは非常に大事なことです。

池上 現代に生きる教養ですか(笑)。

桑子 ええ、私はそう思います。東工大の場合、男子校から来る学生が多いのです。その上、学部や大学院で全く交際の経験がないのは問題です。

上田 いや、本当にそうですね。僕も男子校でしたから、彼らの気持ちが痛いほどよく分かります(笑)。男子校6年のリハビリに10年ぐらいかかりました。それに、フェミニンな発想法といったものに欠けてしまうのです。

正解を決めるのではなく、 物事を動かすことに意味がある

上田 私は、これからの教養には四つのCが必要だと思っています。一つがCommunication。東工大生はすぐ考えているのに、「いや、考えているけど言わないだけです」と言う(笑)。言わない意見が果たして意見と言えるのかどうか。

2番目のCはCommitment。状況にかかわっていくということです。例えば震災が起こった。「僕はそれを分析できる。でも、そこには行かないし、その現状がどう変わろうが興味はない」というのは教養というのかどうか。

もう一つはCreation。以前の教養はデカルトや何かを吸収はしたけれど、次の世代のものを何か生み出したのか。

四つ目のCですが、それが女性性と関係しています。東大の川本隆史さんの哲学塾『共





生から』という本の中に子どもたちの発達段階を調べる例題の話が出て来ます。「奥さんがガンで死にかかって、最近売り出された特効薬以外に治療の手立てはないと診断された。ところが、薬の開発者は、大変高い値段を付けていて、値下げ交渉にも応じない。どうしても金を工面できなかった夫は倉庫に行って薬を盗んだ」さあ、これをどう思うかと聞くと、11歳の男の子ジェイク君は、「開発者の所有権と奥さんの生命のどちらが大切かを決定すれば、正しい答えが自動的に出る」と答えました。

一方、同じ11歳の女の子エイミーちゃんは、「本当に値下げの説得をできないの？ 友達からもっとお金を集められない？」、「夫が捕まったら奥さんの病状がかえって重くならないかしら」と、はっきりした態度を決めかねます。これは、発達段階としては低いと評価されるのですが、その場のコミットメントの中にあって、円滑に進めていこうと努力している。これからはこのような女性的な論理が重要になってくるのではないかと。これをCareの論理と呼んでいます。

世の中の事柄の正解を決めるために僕たちがいるのではなく、それにコミットして動かしていくことに意味があるわけだから、その場の中に飛び込んでいくという教養の形が求められていて、そのためには女の子と付き合うべきだと（笑）。

池上 つまり、生存権か所有権か二者択一で悩むのは、まさに

与えられた条件の中での解ですが、女性の論理で言えばもっとほかのことがあるに違いないということですね。

あの震災が 行動する若者たちを生んだ

桑子 リベラルアーツのリベラルというのは、まさにそういうことだと思うのです。もともとその起源はギリシャ文化の中にありました。自由人としての人間が精神を高めるために学んだり、対話をしたりする。ギリシャの場合、自由とは労働からの自由なんですね。しかし、この考え方が西ヨーロッパ世界に浸透すると、ここでは教会のシステムから人間を開放して、ルネサンスを起こし、近代科学につながっていく。

要するに、リベラルアーツというのは与えられた枠組みを超えるところに重要な意味がある。一体われわれは何から自由にならなければいけないのか。それを考えなければいけないわけです。

上田 本当にそうですね。東工大に来てショックだったのは、みんなすごく世間に弱いことです。

一般教養の授業で、2006年から同じ問いを出しています。「東南アジアの工場に赴任したら、その工場からは有毒な廃液が出ていて、下流で公害病が起こっている。そこで、上司に『今すぐ対策を』と言うと、『そんなことをやっていたらもうからない』と拒絶されてしまった。あなたはどうか対処するか。1、名前を出



して告発。2、インターネットなどで匿名でその情報を出す。3、何もしない」。

最初の年は、200人中180人ぐらいが3を選んだ。つまり、9割が失業を恐れて、目の前で廃液が流れて下流で人が病気になっていても、何もしない。これは果たして自由な社会なのか。真実をしゃべれないとしたら、どんなに物があっても豊かとは言えないのではないかと愕然としたんです。それから、じりじり告発派が増えて、一昨年には1と2を合わせて2割ぐらいになりました。

ところが、震災と原発の事故を経て、去年の6月に同じ問いを出したら、「名前を出して告発」が30人ぐらい、「匿名で情報を出す」が100人ぐらいで、200人のうち130人が告発派に回りました。今の社会状況が彼らを動かしたのです。

新しい教養教育を考えると、発言する力を一緒に与えないといけませんね。たくさん知っていても自分は発言できない、何にもできないのはどうか。知れば知るほど元気にならない知というのはよろしくありません。

池上 なるほど。実は私の「現代社会の歩き方」という講座で、オリンパス事件の印象を聞いたら、ある学生が「こういうことに巻き込まれないようにしようと思います」と言うのです（笑）。

気が付かなければ確かに楽だったけれど、もし、気が付いてしまったら。まさにその人の生き方が問われるわけですよ。「巻き込まれないようにしたいな」では済まないのです。

良い道具として生きなければ 評価されないという思い込み

桑子 今、生き方と言われましたが、このセンターの理念は生き方と深くかかわると思います。知識を授ける以上のこと、人間性を養い、社会性を培うためにはどうしたらいいかを考えていく。人文系科目と社会系科目を柱にするのではなく、人間性と社会性を二つの柱にしたいと思うのです。

その場合の社会性とは市民が自らの責任において積極的にかかわっているという姿勢が重要で、巻き込まれないどころか、自らを現実の中に投入することが、これからの市民社会の在り方です。

池上 つまり、コミットメントできなければ現代の教養とは言えないのです。

上田 本当にそう思いますね。教養というのは自由にしていくことの方向性に向かっていくことだと思うのです。最近、永井道雄さんの『大学の可能性』という本を読み返したのですが、彼は、「人間がほかの何ものかの道具や手段であってはならない」と言っています。つまり、専門化教育を進めるなかで、システムがどんどん精緻になり、人間が何ものかの手段や道具になっている。そして、いい道具として生きなければ評価されないと思ってしまう。この2012年に「人間らしく生きるとは」なんて、アナクロなことを言うなと言われそうだけど、実はこれが最先端だと感じています。

そして、永井さんが強調するのは、「教養とは何かと考える、そのプロセスが教養なんだ」と（笑）。

池上 じゃあ、今、この会場でみんなで教養しているわけですね。

上田 そう、教養（強要）って、みんなに強いてるわけです（笑）。

もうひとつ、永井さんが言っているのは、これを教えれば教養がつくというようなカリキュラムの全体像を提示したところで教養は死ぬと。つまり、社会にコミットする場があって、そこでみんなが全身全霊で自分自身をさらけ出しながら、今、僕にとって人間とは何なのかと社会とのかかわりの中でひたすら考える場があれば、おのずとそこから現代的な教養が出てくるということです。



みんなと同じでなければ ならない息苦しい社会

池上 それでは、3人の話はここまでにして、質問にお答えしようと思えます。まず、ニコニコ生放送*2をご覧の方の質問から。

「大学で教養を学び、社会に出ることは人間としてどんな意味があるのですか」、究極の質問で思わず絶句してしまいますが。

桑子 「教」と「養」、誰が教え、誰が養うのか。先生たちが自分たちを教え、養ってくれると考えたら、違うのではないかと。自らが自らを教え、自らを養うことが教養をつけるということです。それはまさに自分が成長するということですよ。

上田 ちょっと難しくすぎて分からないところがあるけれど、社会には出ないといけないのだから、どこで一番自分が輝くのか、幸せに思えるのかを考えることが重要で、それを考える場面がないまま社会に与えられた評価システムの中に入ると、完全にロボットになってしまうと思うんです。

池上 自分の存在は社会の中でどんな意味があるのかと自分を客観視する力を身に付けることが、大学で教養を学ぶことの一つの意味ではないかなと思います。

(会場から) 非常に閉塞感が強い社会ですが、自由な考えの障害になっているものは何でしょうか。

桑子 思考の転換ができてない、20世紀的な発想がわれわれを縛っているのではないかな。常識を疑うところから出発してほしいと思います。

上田 やっぱ日本社会の中の同調圧力の強さですよ。みんなと同じでなければいけない。ほかの人からどう見られるか、いじめられるんじゃないか。それが大人から、小学生まで貫徹してしまっただけで、本当に苦しい社会だと思います。

池上 上田先生のおっしゃるとおりですよ。小学校の高学年ぐらいから、ひたすら空気を読んで、KY*3と言われないようにする。そこで、空気に関係なく発言していく勇気が求められると思います。ただ、そのときに、「あいつは空気が読めないけれど、言っていることはそのとおりだ」と言われるだけの力をつけることが大事だと思います。



桑子 思考するときも、人の意見に引きずられないトレーニングが必要で、自分の意見にちゃんとコミットメントするというのが大事ですよ。

池上 自らの責任においてコミットメントしながら発言する力をつける。それもまた現代の教養、大学でつけられる教養ではないかと思うのです。

そろそろ時間になりました。それでは最後に上田先生から締めを。

上田 今日はこの会場だけでなく、この向こう側で1万6000人*4の方が見ておられる。その感じも大切だと思います。大学というのは小さな場でありますけれども、その限定された場でどれだけ大きな場とつながり、コミットしていけるのかというのが私たちの使命ではないかと思っています。

まずは今日ここで皆さんとお会いできたこと、そして、場を共有できたことを大変感謝しております。本当にありがとうございました(拍手)。

*1: 学部1年から教養教育とともに少しずつ専門的な教育を初め、学年が上がるごとに専門科目の比率を増やすという東工大の伝統的な教育方法。

*2: インターネット上でニコニコ動画が提供する生中継動画配信サービス。ニコニコ動画と同様にコメントを付けることができるので、出演者とのコメントのやり取りが可能。政治家や芸能人の記者会見、スポーツ放送、映画、テレビ番組など幅広く配信されており、この講演会も生中継された。

*3: 頭文字を略語とする日本の若者言葉の代表格。「空気を読めない人」の意味。2007年ユーキャンの新語・流行語大賞にノミネートされた。

*4: 最終的にはこの講演会の中継の来場者数は25,219人、総コメント数10,520件を数えた。